

戦争の悲劇的結末への宣誓

日本への米軍侵略は、1945 年 3 月 26 日、慶良間諸島への上陸で始まりました。この戦跡碑は、1979 年から照山園地遊歩道の入り口近く、村道阿波連線にあります。これには日本人のカトリック教徒の作家、曾野綾子さんによる、長く悲痛な碑文が刻まれています。

戦跡碑碑文

ここに記すのは、昭和 20 年（1945 年）この島に於いて戦われた激しい戦闘と、島民の死の歴史である。

大東亜戦争の最後の年の 3 月 23 日より、この渡嘉敷島は、米軍機の執拗な空爆と、機動部隊艦艇からの艦砲射撃にさらされた。山は燃え続け、煙は島を包んだ。当時島にあったベニヤ板張りの船を利用した、夜間攻撃用の特攻船艇部隊は、出撃不可能となり、艇を自らの手によって自沈するようにとの命令を受けた。こうして、当時、島にあった海上艇進三戦隊、同基地隊などの将兵 315 名は、僅かな火器を持っただけで、島の守備隊とならざるを得なかった。

3 月 27 日、豪雨の中を米軍の攻撃に追いつめられた島の住民たちは、恩納河原ほか数か所に集結したが、翌 28 日敵の手に掛かるよりは自らの手で自決する道を選んだ。一家は或いは、車座になって手榴弾を抜き或いは力ある父や兄が弱い母や妹の生命を断った。そこにあるのは愛であった。この日の前後に 394 人の島民の命が失われた。

その後、生き残った人々を襲ったのは激しい飢えであった。人々はトカゲ、ネズミ、ソテツの幹までを食した。死期が近づくと人々の衣服の縫い目にたかっていたシラミはいなくなり、まだ辛うじて呼吸を続けている人の目に、早くもハエが卵を生みつけた。

315名の将兵のうち18名は栄養失調のために死亡し、52名は、米軍の攻撃により戦死した。昭和20年8月23日、軍は命令により降伏した。

8月20日、第一中隊前進陣地ニ於テ、各隊兵器ヲ集積シ、遥カ東方皇居ヲ拝シ兵器訣別式ヲ行ウ。太陽ハ輝キ、青イ空、青イ海、周囲ノ海上ニハ数百ノ敵艦艇ガ静カニ遊戈或イハ碇泊中ナリ、唯、茫然、戦ヒ既ニ終ル」

(陣中日誌より)

昭和54年(1979年)3月

曾野 綾子選